木咲　弘先生を偲んで

平成 24 年 10 月 21 日，木咲弘先生は天に召されました。同じ年の 5 月いちご会（リユニオン）には卒業生に囲まれ，元気なお姿をみせてくださっていたそうですが，夏頃から体調を崩され，徐々に体力が衰えていらっしゃったとのことでした。その後は，ご家族による自宅での介護が続き，最期は愛するご家族に看取られ 88 歳の生涯を終えられました。先生がお亡くなりになった 21 日は弘法大師の命日であり，先生のお誕生日（2 月 21 日）でもあります。弘（ひろむ）というお名前は，弘法大師にちなんで名付けられたそうです。

私は，木咲先生が同志社女子大学をご退職なさったときに食品化学Ⅱ研究室の助手をしておりました。今回，最後の助手ということでこの追悼文を書かせていただくことになりました。私よりももっと先生とお親しくて，追悼文を執筆されるに相応しい卒業生の方々がいらっしゃるなか，大変恐縮いたしております。ここでは，研究室での先生の想い出を振り返りたいと思います。

大学生の頃に出会った先生は，学生たちから怖い厳しい先生だと思われていました。先生のご担当に食品化学Ⅱ（以下，食Ⅱ）という科目がありました。食Ⅱの授業では，学生たちが教卓付近の前方の席を競って陣取っていました。何故，競っていたかというと，先生の講義のお声はそんなに大きくなく，学生は前の方の席に座っていないと，先生のお声を聞き取れなかったからです。特に重要なところは小さいお声で，ボソボソとおっしゃいました。先生のお話を聞漏らしてはいけないので受講生たちは静かにするのがあたり前のことであり，必死でノートをとっていました。最近の大学の授業では，教師が小さい声で話そうものなら，学生による授業評価によって厳しく評価され，教師に授業改善が求められるのですが，かつては学生が教師のスタイルにあわせるしかありませんでした。そうやって，学生は聴く力，ノートをとる力を身に付けていったのだと思います。先生の意図もまさにそこにあったのかもしれません。

私が 4 年生になって念願の食Ⅱゼミに入ったときは，友人と手を取りあって喜んだことを覚えています。しかし，喜んだのもつかの間，先生の厳しさに触れ，大変なゼミに入ったものだと不安に思いました。出来のよくない私たちふたりに対して，大きな期待もせずに，根気よく相手をしてくださいました。学生へは厳しいご指導の一方で，お茶会やお食事会など，楽しみ事をきちんと設けてくださっていました。そんなときの先生は授業とは異なり，いつもニコニコしておられました。初めは先生とどんなお話をしてよいのか分からず緊張もしていましたが，先生の笑顔と美味しいお菓子に魅せられて，ほっとひと息できるお茶の時間が楽しみになっていきました。

先生の食Ⅱゼミは昭和 28 年から平成 6 年までに 530 名の卒業生を輩出しています。平成 6 年の退職記念パーティーへは大勢の卒業生が参加して下さいました。記憶が曖昧になってきましたが 300 名近くはいらっしゃったと思います。先生は，卒業生とのつながりを非常に大切にしておられました。退職なさるまでには，年に 1 回のリユニオンであるいちご会を開き，卒業生とお会いするのを楽しみにしておられました。

研究者としての先生は，一つ一つ丁寧に問いを明らかにしていく粘り強い姿勢がおありでした。実験に使う装置や道具をご自身でつくっておられるときは，まるで少年のように無邪気に楽しんでおられました。先生の頭の中にはアイディアがいっぱいつまっていて，学会の帰りには刺激を受けた後の興奮冷めやらず，色々なアイディアを，電車に乗って帰る間，私にずっと語ってくださるのでした。大学院生の特別講義には木咲先生が講師を探してこられるのですが，民族植物学（雑穀）の阪本寧男先生，食品加工学（小麦粉製品）の瀬口正晴先生といった著名な講師の先生方を連れてこられました。書籍や論文で読んだことのある先生方の講義を受けられるという幸せに，ワクワクしていました。先生の研究者としてのご交流は，学生にとってアカデミックな刺激をもたらしてくださったのでした。

先生の忘れられないお言葉があります。私が助手のときのことでした。休憩にお茶をいれていたところ，薄くでてしまったお茶をそのままだそうとしていたとき，先生から「一事が万事ですよ」と指摘されました。はっとしました。日常の一杯のお茶をいい加減にだしてしまった私の心のすきをお見逃しにならなかったのです。そのお言葉は，私の座右の銘のひとつにもなっています。

厳しい先生でしたが，愛情をもって学生を支えてくださいました。自分が教職についてようやく，先生のご教示の意図がわかったきたような気がします。そして，私は，教師としても，研究者としても，人としても，まだまだ足りないと思うのです。先生はもうこの世にはいらっしゃいませんが，前よりも私の近くにいてくださるような気がしています。先生のお姿を追いながら，これからも精進してまいります。

木咲先生のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

家政学部 S 58 卒，大学院 H 5 修了，現在関西学院大学教育学部教授　今津屋直子